

第七十四回
帝國議會
貴族院

職員健康保險法案特別委員會會議事速記録第七號

付託議案(追加)

健康保險法中改正法律案

昭和十四年三月二十三日(木曜日)午後一時三十分開會

○委員長(男爵大森佳一君) 開會ヲ致シマス、三法案ニ關スル御質問ハナイト認メマシテ打切リマス、是ヨリ討議ニ移リタイト思ヒマスルガ、討議カラ採決ニ進ミマスルガ、議題ハ一括致シマシテ上程ヲ致シタイト思ヒマス、御異議ハゴザイマセヌデスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(男爵大森佳一君) 異議ナイモノト見マシテ、三法案一括致シマシテ議題ト致シマス、先ヅ最初、原案ニ對シマシテ御反對若シクハ修正ノ御意見ニ付キマシテノ御開陳ヲ願ヒタイト思ヒマス……ゴザイマセヌケレバ、然ラザル方面ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス、通告ガゴザイマシテ、園田男爵ニ御許ラシタイト思ヒマス

○男爵園田武彦君 私ハ職員健康保險法案ニ對シテ賛成ノ意ヲ表シマスニ當リマシテ、所信ヲ披瀝致シ且政府ニ對シ注意ヲ促シ、併セテ希望ノ一端ヲ申述ベタイト存ズル次第デアリマス、本案ハ曩ニ提出成立ヲ見マシ

タル健康保險法案竝ニ國民健康保險法案ト相俟テ、社會立法中最モ重大ナル法案デアリデアリマス、之ガ目的トセラレマス所ハ前二法案ノ趣旨ト同様、國民生活ノ安定ト其ノ健康ニ重點ヲ置カレ、延イテハ國民體位ノ向上ヲモ圖ラムトスルニアリマシテ、事變下ニ於テ此ノ法案ノ提出ハ最モ有意義ノモノト認メルノデアリマス、併シナガラ本法案自體ノ内容ニ付テ檢討致シマスレバ、其ノ目的ノ達成上、又之ガ實施上ニ付テ十分満足シ難キ點ト共ニ遺憾ノ點ナシトセザルモノモアルノデアリマスルガ、政府モ此ノ點ヲ認メラレマシテ、漸進的ニ之ガ改善ヲ行フ旨ヲ約セラレタノデアリマス、私ハ政府ノ意ノアル所ヲ諒トスベキモノト信ズル者デアリマス、唯茲ニ希望セントスルコトハ、國民ノ體位ト其ノ保健ノ點デアリマシテ、破壊ニ先ダチ建設ヲ必要トスル如ク、健康ヲ害シタル爲ニ於テ、之ガ手當ヲ施スコトヲ考フル前ニ、先ヅ政府ハ國民ノ健康ト之ガ體位ノ向上ニ資スベキ總テノ施設等ニ萬全ヲ期サルベキデアリマス、即チ我が國民ノ體位ガ低下ノ一途ヲ辿リツ、アル現狀ニ鑑ミ、其ノ根本對策ト其ノ原因ヲ探究

スルコトハ極メテ急務ト信ズル者デアリマス、政府ハ此ノ點ニ付テ深甚ノ考慮ヲ拂ハレ、且最善ノ努力アラムコトヲ要望致ス者デアリマス、斯クシテ健全ナル精神ハ健全ナル身體ニ宿ルト云フ諺ノ如ク、是ガ國力増進ノ一大原動力トナリ、延イテハ國防上又生産力擴充トモナリ、銃後ノ護リヲ益固カラシメ、以テ東亞新秩序ノ建設ト其ノ國策ノ遂行ヲ達成セシムルヤウ、政府ハ最善ノ指導精神ヲ以テ御努力セラレムコトヲ希望致ス次第デアリマス、私ハ本案政府提出ノ原案ニ賛成ノ意ヲ表スル者デアリマス

○委員長(男爵大森佳一君) 富小路子爵

○子爵富小路隆直君 先ヅ第一ニ職員健康保險法案、之ニ付テ述ベマス、私ハ本案ニ賛成スルニ當リマシテ一言申述ベタイト思ヒマス、第一ニ、小人數ヲ使用スル商業的企業ニ使用セラレル者ノ保護ニ付テデアリマス、本法ニ於テハ「常時十人未滿」トナッテ居ルノデアリマスガ、原案ニ於テハ五人未滿デアッタノデアリマス、社會ノ實際ニ徴シマスルニ、最モ保護ヲ必要トスルノハ三人五人ト云フ小人數ノ者デアアルノデアリマシテ、健康保險法トノ權衡上、又經濟的負擔力ノ

點カラ考ヘテモ、少クトモ常時五人以上ヲ使用スル事業ノ事務所ニ使用セラル、者ハ強制被保險者トスルコトガ極メテ適切デアルト思フノデアリマス、第二ニ、本法ノ適用カラ除外サレテ居リマスル官吏、雇傭員、教職員中、共濟組合等ノ制度ノ保護ヲ受ケテ居ナイ者ガ多數アリマシテ、是亦保護ノ必要ノ切實ナルモノガアルノデアリマス、政府ニ於カレテモ其ノ必要ヲ十分ニ認識シテ居ラル、ノデアリマスカラ、本法ト同時ニ適切ナル施設ヲ講ゼラレムコトヲ切望致シマス、次ニ、療養ノ給付期間ノ延長ノ問題デアリマスガ、結核ノ如キハ斯クノ如キ短期デハ到底療養ノ目的ヲ達スルコトハ不可能デアルト思フノデアリマス、從ヒマシテ此ノ點ニ關シテモ十分ニ御考慮ヲ煩ハシタイノデアリマス、又第一條第二項ニ所謂世帯員ニ對スル醫療給付ヲ速カニ實行シテ貰ヒ其ノ他ニモ不備ノ點多ク、各方面ノ期待ニ背馳スル所尠クナイト思フノデアリマスガ、會期切迫ノ折柄デモアルシ、無キニ優ルノ意味ニ於テ賛成スル者デアリマス、政府ハ適當ノ機會ニ於テ善處セラレムコトヲ切ニ

望ム次第デアリマス、次ニ、船員保險ニ付テ申述ベタイト思ヒマス、私ハ又本案ニ贊成ヲスルモノデアリマス、而シテ此ノ際以下少シク申述ベマス、海員諸君ガ、外國貿易ノ爲ニ或ハ又國際收支ノ觀點カラ或ハ又資源開發、將又國防上、國家ノ爲ニ常ニ如何ニ貢獻シテ居ラル、カト云フコトハ今更申述ベル迄モナイノデアリマシテ、更ニ今回ノ事變ニ於テ、其ノ本來ノ使命ニ於テ、又彈雨ノ間ニ身ヲ挺シテ敵前上陸ニ於テ軍ノ作戰ニ協力シ、非常ナル犧牲ヲ出シテ居ラル、ノデアリマスガ、又漁船乗組員ガ中支作戰等ニ於テ軍ノ重要ナル任務ニ從ヒ、實ニ涙グマシキ働キヲシテ居ラル、ノデアリマシテ誠ニ感謝ニナイ次第デアリマス、本案ハ海員諸君多年ノ要望スル所デアリマシテ、關係當局ノ久シキニ互ル御奮闘ノ結果、漸クニシテ茲ニ成案ヲ得タ次第デアリマシテ誠ニ御同慶ニ堪ヘザル所デアリマシテ、固ヨリ最初ヨリ其ノ完璧ヲ期スルコトハ無理デアリマスガ、未ダ盡サザルモノアリ遺憾ノ點尠クナイノデアリマス、以下所見ヲ開陳致シ當局ニ要望スル所アリタイト思ヒマス、先ヅ第一ニ漁船乗組員ニ付テデアリマス、母船式漁業ニ從事スル母船船員以外ノ漁船乗組員ハ、第十七條第一項第三

號ノ勅令ヲ以テ之ヲ本法中ヨリ除外セラレタイ、而シテ漁船乗組員ニ對シテハ其ノ特殊性ヲ考慮シ、本法ト別個ノ法律又ハ共濟組合等ノ制度ヲ樹立スルノ必要ガアルト信ズルノデアリマス、仍テ政府ハ速カニ是ガ關係者ノ間ニ於テ協議立案シテ、次ノ議會ニ提案セラレタイノデアリマス、第二ニ、養老年金開始ノ年齢ヲ五十歳トシタノハ早過ギルノデアリマス、仍テ政府ハ速カニ是ガ優秀ナル船員ヲ成ルベク長ク勤務セシムルコトハ極メテ望マシイコトデアリマスルガ、年金ヲ貰ツタカラト云フテ直チニ罷メテシマフト云フヤウナコトガアツテハ甚ダ遺憾ニ堪ヘナイノデアリマシテ、本法ノ如ク五十歳トスルコトハ、其ノ點ハ杞憂ニ屬スルカ存ジマセヌガ、甚ダ疑ヲ存スルノデアリマシテ、又一面ニ徒ラニ早老ノ風習ヲ誘致スル虞モアリマスノデ、政府ハ宜シク將來ノ實績ニ鑑ミテ必要アラバ適當ニ考慮セラレムコトヲ希望シテ已マナイ次第デアリマス、第三ニ、政府ハ船員ノ特殊性ト云フコトニ付テ縷々御話ニナッタノデアリマスガ、成ル程海上生活ヲシテ居ルト段々陸上ノ事情ニ疎クナツテ、一旦船員ヲ罷メルト誠ニ悲惨ナ結果ニ終ルモノガ少クナイト云フノガ現状デアリマス、我ガ國ニ於キマシテハ、海運

國策上、從來ハ主トシテ物的補助ニカヲ注イデ居ッタノデアリマスガ、今後ハ人的方面ノ擴充ト云フコトガ極メテ必要デアアルデアリマス、從ツテ多クノ優秀ナル船員ヲ成ルベク長ク勤務セシムルガ爲ニハ、其ノ將來ノ生活ヲ保障シ、安定セシムルコトハ當然ノコトデアツテ、斯クアツテこそ、彼等ヲシテ安心シテ長ク其ノ職ニ留マラシムルコトガ出來ルト思フノデアリマス、是レ今回特ニ船員ニ付テ年金制度ヲ行ハレタ所以デアルト思フノデアリマス、然ルニ其ノ内容ヲ見マスルニ甚ダ貧弱ニシテ、實ニ不徹底ト言ハザルヲ得ナイノデアリマス、當局ノ本案ニ對スル熱意ノ足ラザルヲ疑フモノデアリマシテ誠ニ遺憾ニ存ズルノデアリマス、長期給付ニ對スル國庫負擔金ノ如キ其一例デアリマシテ、甚ダ少額ニ過グルト思フノデアリマス、成ル程今日ノ如ク多額ノ國費ヲ要スル時ニ、餘リニ國家ニ負擔ヲ掛ケルコトモ如何カト思ヒマスガ、海運國策上、此ノ保險ニ對シテ相當ノ金ヲ出スコトハ、或ハ海員ノ特殊性ト云フコトニ考ヘ、陸上ニ見ラザル其ノ勞苦ニ酬ユルノ意味ニ於テモ、寧ロ當然ノコトデハナイカト思ハレルノデアリマシテ、殊ニ其ノ負擔ノ方法ノ如キモ、給付ヲスル場合ニ初メテ負擔スルノデアリマス

カラ、國庫ノ現實ノ負擔ハ相當先ノコトニナルデアリマス、從ツテサウ無理トハ考ヘラレナイノデアリマス、斯様ニ考ヘマスト、政府ハ直チニ關係各省間ノ協議ヲ纏メ、其ノ海運國策上ノ重要性ニ鑑ミ本法ヲ改正スルト共ニ、國庫負擔金ヲ三分ノ一以上ニ増額シテ給付ノ内容ヲ充實スル等、速カニ善處セラレムコトヲ切望スル次第デアリマス、最後ニ私ハ本案ニ贊成スルモノデアリマスガ、決シテ之ヲ満足シテ爲スモノデナイコトハ前述ノ通りデアリマス、是レ以上審議ヲ繼續スル時ハ、或ハ審議未了ニ終ルノ虞ガアリ、斯クテハ船員諸君多年ノ要望デアル所ノ本法ハ不成立ニ終ルノデアリマシテ、私ノ本意トスル所デナイノデアリマス、是亦無イヨリハ宜イトノ意味ニ於テ贊意ヲ表スル所以デアリマス、次ニ健康保險法中改正法律案ニ付テ申述ベマス、私ハ本改正案ニ對シテモ贊意ヲ表スルモノデアリマス、而シテ其ノ改正ニ付キマシテハ、此ノ程度ヲ以テ満足スルモノニ非ズ、更ニ被保險者ノ範圍及ビ醫療給付ノ内容ノ擴充強化ノ如キ最モ緊切ナルモノガアルノデアリマス、未ダ遺憾ノ點尠カラザルモ、會期切迫ノ折柄審議未了トナルノ虞ガアリマスカラ、今暫ク此ノ程度ヲ以テ贊意ヲ表シテ置

クモノデアリマス、尙將來ノ改正ニ對シマシテハ、各種保險法ノ特殊性ニ考ヘラレマシテ、其ノ必要限度ニ止メテ其ノ均衡ヲ失スルコトノナキヤウ、特ニ御留意アラムコトヲ切望スル次第デアリマス

○男爵園田武彦君 私ハ船員健康保險法案ニ贊成ノ意ヲ表スルモノデアリマス、本案ハ我が海運國策ト其ノ業者ニ取り極メテ重大性ヲ持ツ法案デアリ、多年ニ亙リ海運界並ニ船員ニ依リ要望シ來タモノデアリマス、殊ニ今事變下ニ於テ本法案ノ成立ヲ希望スル聲ハ、全國ヲ通ジテ熱烈ナルモノガアルノデアリマス、此ノ意味ニ於キマシテ本案提出ハ寧ロ遲キニ失シタル感ガアルノデアリマス、更ニ本法ノ實施ニ依リ船員ノ生活ノ安定ト、其ノ保健上ヨリ且又後顧ノ憂ナカラシムルヲ得ル點ハ、各、其ノ處ヲ得セシメテ其ノ職ニ安ンゼシムルモノデアリマシテ、現政府ノ民心一新ヲ圖ル指導精神ハ此ノ點ニアルト存ズルノデアリマス、而シテ平沼總理大臣ハ屢、此ノ點ニ付テ聲明サレタ所デアリマス、其ノ故ニ其ノ現レノ一端ト之ヲ認メ得ルノデアリマス、四面海ヲ以テ環ラス我が國ハ、海運國策ハ極メテ重大性ヲ持ツコトハ敢テ言フ要セザルコトデアリマシテ、國防上又貿易ノ發展、延イテ

ハ生産力擴充等ニ資スルコトガ大ナルモノガアルノデアリマシテ、殊ニ事變下ニ於キマシテ更ニ躍進ヲ遂ゲ行ク上ニ於テハ、物心兩方面ニ待ツコト大ナルモノガアルト信ズルモノデアリマス、即チ優秀船ノ保持ト共ニ、優秀ナル船員ヲ必要トスルノデアリマスガ故ニ、其ノ海員ガ多年要望シ來リマシタル本案ハ、速カニ其ノ成立ヲ必要ト信ズルモノデアリマス、以上ノ理由ヲ以テマシテ本案、政府提出原案ニ贊成ノ意ヲ表スルモノデアリマス

○委員長(男爵大森佳一君) 他ニ御意見ハゴザイマセヌカ、他ニ御意見ガナケレバ採決ヲ致シタイト考ヘマス、三法案ニ付キマシテ御異議ガザイマセヌケレバ、原案通り決シテ御異議ゴザイマセヌデスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○委員長(男爵大森佳一君) 全員御異議ナイモノト認メマス、可決スルコトニ決定ヲ致シマス、引續キマシテ付託サレテ居リマスル一法案、民族優生保護法案、此ノ審議ニ入りタイト思ヒマス、御質問モゴザイマシレバ……、此ノ際委員長ヨリ委員ト致シマシテ大臣ニ伺ヒタイ、此ノ法案ニ關シマシテ、厚生大臣トシテ將來ニ處スル御意圖ニ關聯致シマスルコトヲ一應承ツテ置キタ

イト思ヒマス

○國務大臣(廣瀨久忠君) 只今議題トナツテ

居リマス衆議院カラ出テ居リマス法律案ニ對シテハ、政府トシテハ贊成致シ兼ネルノデアリマス、併シ政府トシテハ現在優生問題ニ付キマシテハ昨年来色々研究致シテ居リマス、本年度ノ豫算ニ於キマシテモ調査費ヲ取りマシテ、現ニ各方面ノ此ノ問題ニ關スル權威者ノ御集リヲ願ッテ審議ヲ進メツ、アリマスルノヲ尙一段ト強化シテ、十分ニ調査シテソレデ決定致シタイト思ッテ居リマス、從ヒマシテ現在此處ニ出テ居リマス所ノ法律案ニ對シテハ贊成ヲ致シ兼ネル譯デアリマス、優生ニ關スル實際上ノ調査ノ模様等ニ付キマシテハ、御許ヲ得マシテ政府委員カラ申上ゲタイト思ヒマス、技師ガ居リマスカラ懇談ニシテ戴キタイトノデスガ……

○委員長(男爵大森佳一君) ソレデヤ此ノ次ノ機會ニ願ヒマス、今日ハ是デ散會ヲ致シマシテ、次ノ開會ハ彙報ヲ以テ御通報ヲ致シタイト思ヒマス、今日ハ是デ散會ヲ致シマスルガ、此ノ時ニ當リマシテ申上ゲマス、三法案ニ付テノ可決決定ハ直チニ取敢ズ議長ノ方ニ報告ヲ致シマス、多分明日ノ本會議ニ上程サレルコトト存ジマスルガ、

委員會ノ審議模様ニ付キマシテハ、努メテ委員長ヨリ詳シク報告ヲ致シタイト思ヒマスルガ、御論議ノ内容ガ随分深く廣ク互ツテ居リマスノデ、到底私ノロドハナカク正シク詳シク申述べルコトガ困難カト思ヒマスルガ、成ルベク御意思ノアル所ハ映シタイト思ッテ居リマス、併シ多分御不滿ヲ買フコトグラウト思ヒマスガ、此ノ點ハ惡シカラズ御了承ヲ願ヒタイト思ヒマス、連日三法案ニ關シマシテ御熱心ノ御論議敬服ニ堪ヘナイト存ジマス、御苦勞様デゴザイマシタコトヲ私ヨリ感謝ヲ致シマス次第デアリマス、委員長甚ダ行届キマセヌデアリマシタコトハ御許ヲ願ヒタイト思ヒマス、次ノ開會ハ彙報デ御知ラセヲ致シマス

午後二時三分散會

出席者左ノ如シ

- 委員長 男爵大森 佳一君
- 副委員長 子爵實吉 純郎君
- 委員 公爵鷹司 信輔君
- 侯爵蜂須賀正氏君
- 伯爵堀田 正恒君
- 子爵松平 保男君
- 子爵富小路隆直君
- 織田 萬君



小原 直君

河井 彌八君

男爵小池 正晁君

河原田稼吉君

下村 宏君

男爵園田 武彦君

若尾 璋八君

濱口儀兵衛君

松岡 潤吉君

國務大臣

厚生大臣 廣瀨 久忠君

政府委員

保險院總務局長 佐藤 基君

保險院社會保險局長 清水 玄君

昭和十四年三月二十五日印刷

昭和十四年三月二十六日發行

貴族院事務局

印刷者 內閣印刷局